

2005年3月28日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No. 18

【発行】 熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課 地域福祉企画班

最近、PTA関係の資料に、「1人の1万ポンドより1万人の1ポンド」という言葉が紹介されていました。これは、現在イギリスで、200万人の会員によって支えられているナショナルトラストの運営方針だそうです。古くから「長者の万灯より貧者の一灯」と言われておりますが、洋の東西、あい通じるものを感じました。

熊本県のNPO法人の第1号として平成11年に認証された「ボランティア仲間九州ラーメン党」の代表、濱田達郎さん（益城町）がこの度『貧者の一灯』という本を出版されました。自らの生き様を語るとともに、一灯を捧げる人たちが続いて欲しいという思いを込められたことでしょう。

県内のボランティア数10万人超、NPO法人数245。活動は確実に広がっています。

【今月の内容】

〈平成17年度予算の耳より情報〉

- 1 熊本県地域福祉基金助成事業の募集案内
- 2 地域の縁がわづくり事業の募集案内

〈トピックス〉

- 1 地域に密着した福祉サービスのモデルづくり
～「健軍くらしささえ愛工房」での事業企画について～
- 2 発災時における一般の災害ボランティアの受け入れ体制の検討始まる
- 3 キャッチフレーズが決定されました！
～ 第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと～
- 4 熊本県福祉サービス第三者評価システムの基本的な考え方がまとまりました
～ 17年度から作業部会を設け、種別ごとの評価基準等を検討し、18年度評価スタート～

〈地域情報〉

- 1 みんなの憩いの場 ～小規模作業所「こまちの森」(植木町)～
- 2 障害者、高齢者の旅行サポート事業が始動
～ NPO法人介護支援ネットワーク人吉球磨(人吉市)～

《お知らせ》

県ホームページにバックナンバーを掲載しています

平成17年度予算の耳より情報

4月以降、次の2つの助成事業について、民間団体を対象に公募を開始します。

該当団体への周知をお願いしますとともに、多くの団体からの応募をお待ちしております。

《募集要項の配布場所》

熊本県庁行政棟新館4階 福祉のまちづくり課

各地域振興局の福祉課

くまもと県民交流館パレア「パレアホール」(熊本市手取本町8-9)

熊本県ホームページ「県からのお知らせ」からダウンロードもできます。

《お問い合わせ・申込先》

熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課 地域福祉企画班

住 所：熊本市水前寺6丁目18番1号

電 話：096-383-1111(内線7027)

1 熊本県地域福祉基金助成事業の募集案内

〔1.目的〕

創意と工夫を凝らした先導的で広域的な民間団体の福祉活動を支援促進するとともに、モデル的に実施している事業で効果の高い全県的に拡大する必要がある民間福祉活動に助成します。

〔2.平成17年度事業の概要〕

地域福祉の推進にとって、民間団体の活動を促進することがきわめて重要であることから、広く公募し、多様な主体による先導的事业を支援し、普及してまいります。

特に、平成16年3月に策定した熊本県地域福祉支援計画「地域ささえ愛プラン」の目標である『ともに創る「地域共生」くまもと』の実現を図るため、民間団体への助成事業を計画的に推進します。

〔3.事業内容〕

民間団体への助成事業(公募型助成事業)

【対象事業】(例示)

「地域ささえ愛プラン」の中で示しているソフト事業

結びづくり：地域の支え合いを進める事業

(・住民見守り活動・小地域ネットワーク・住民参加型福祉サービス・地域通貨 等)

ちからおこし：地域のパワーアップを図る事業

(・社会参加促進・コミュニティビジネス・地域で子育てサポート・難病者の地域生活支援・外出支援サービス 等)

人づくり：地域住民の支え合う意識づくり、支える人づくり

(・ 啓発セミナー ・ 活動リーダーの養成 ・ 世代間交流 ・ 子どもたちの健全育成 等)

仕組みづくり：利用者の視点に立った仕組みづくり

(・ 住民相談体制の整備 ・ 地域福祉ケアマネジメント体制整備 ・ 校区社協づくり ・ ボランティアセンターの機能強化 ・ ホームレス支援 等)

【助成対象者】	地域福祉活動団体、ボランティア団体、NPO、社会福祉協議会
【助成総額】	25,000千円
【上限額】	1事業当たり200万円以内
【助成率】	対象経費の2/3以内
【公募回数、時期】	年2回(4月、なお、予算の範囲内で9月に追加募集の予定)
【審査方法】	選考基準に基づき、審査会で審査

2 「地域の縁がわづくり」事業の募集案内 ~ 地域福祉の推進を目指して ~

〔1. 事業の趣旨〕

県では「地域福祉支援計画(地域ささえ愛プラン)」に基づき、県内各地域での地域福祉の取組みを促進しているところです。

この計画の中でも中心的な施策である「地域の縁がわづくり」に焦点を絞って先駆的な取組みを行う団体をモデル的に支援し、多様な福祉サービスが育つきっかけづくりを推進するものです。

〔2. 地域の縁がわとは〕

誰もが気軽に集え、様々な交流やコミュニティをうみだしていく福祉の拠点のことです。

〔3. 募集対象〕 今年度は熊本市に所在する法人も含みます。

社会福祉法人 今年度は社会福祉法人も含みます。

特定非営利活動法人又は非営利の福祉活動を行っている任意団体、家族会、保護者会等であって、活動歴が1年以上、構成する会員が概ね10人以上などの要件を満たし、熊本県内に福祉の拠点をつくる団体

〔4. 対象事業〕

高齢者、障害者、子どもなど対象者を限定することなく、誰もが集える福祉の拠点を設置し、地域住民等へ福祉サービスを提供する以下の事業とします。

小規模多機能型福祉ホーム

ミニデイサービスセンター

ミニ作業所(ショップや工房)

住民交流サロン

一時預かり、一時宿泊所

ミニグループホーム

その他地域福祉の拠点となるような場

〔 5 . 助成金額 〕

1 団体 2 0 0 万円以内 (予算総額 6 0 0 万円)

設備費 (設備・備品購入) 又は施設の改修を対象とし、2 分の 1 以内で補助。

* 基本事業費 (広報関係費等) と管理費 (人件費、家賃、光熱水費等) は対象外

〔 6 . 募集期間 〕

平成 1 7 年 4 月 (予定)

〔 7 . 選考方法 〕

県庁外部の有識者等で組織する地域福祉推進委員会で審査 (6 月頃の予定)

トピックス

1 地域に密着した福祉サービスのモデルづくり

~ 「健軍くらしささえ愛工房」での事業企画について ~

「健軍くらしささえ愛工房」は県地域福祉支援計画「地域ささえ愛プラン」の具体的な推進方策の一つとして、県営健軍団地の建替えを契機に、その一部に福祉施設を併設して、民間団体 (社会福祉法人、N P O 法人等) に有償で貸し付けることとしたものです。

これは、県営健軍団地の建替えを、地域住民からも意見を伺いながら様々な角度から検討する中で、利用者中心のサービスや世代間交流など新しい時代の地域福祉を実現していくモデルとして取り組むこととしたものです。

県内の民間団体を対象に、ここで実施する事業企画を公募した結果、1 0 団体の応募がありました。このうち、応募要件に該当した 9 団体について、プレゼンテーションを踏まえて企画内容を、地域福祉、高齢、障害、児童の各福祉分野の実務経験者や学識経験者で構成する審査会で厳正な審査を行い、「特定非営利活動法人おーさぁ準備会」が提案した事業企画を 1 位とする決定が行われ、これを受けて、県として同団体が提案した事業企画を採用すること決定し、2 月 1 0 日に公表しました。

「特定非営利活動法人おーさぁ準備会」には、健軍地域の住民の方や健軍商店街、校区社会福祉協議会の方などと十分に意見の交換をしていただき、地域に根ざした総合的な福祉サービスを提供できるよう準備を進めていただいています。

事業開始については、外構工事が完了する本年 1 1 月頃になる予定です。

また、この事業の運営で得られたサービスの仕組みやノウハウなどについては、県下全域からの実習生の受入れや研修会の開催等を通して、市町村や関係する団体に普及していきたいと考えています。さらに、この取組みを、市町村合併が進む中で使われなくなる公共施設、あるいは商店街の空き店舗等、地域の資源を活用してまちづくりに取り組む際のモデルにしたいとも考えています。

今では少なくなりましたが、日の当たる縁がわは、お年寄りや隣近所の人が情報交換をしたり、子どもたちが遊ぶ様子を見守ったり、若い母親に子育ての知恵を伝えたり、色々な人々の

交流の場でした。人々が日々の暮らしに安心を覚えることができ、誰もが気軽に集いふれあうことができる、人間の情感があふれる、「新しい地域の縁がわ」が身近なところに生まれることで、県民みんなで共に支え合う、住み続けたい、終の住処として戻りたい、あるいは縁を結びたいと思える「くまもと」にしていきたいと考えています。

参考 採用する事業企画の概要

〔 1 . 応募団体名〕

特定非営利活動法人 おーさぁ 準備会 代表 小笠原嘉祐

住 所 : 熊本市黒髪 5 - 2 3 - 1

運営形態 : 高齢者・障害者福祉等で既に実績のある団体が連携し、健軍地域住民も参画して運営法人を構成し、多様な地域福祉サービスを実施

連携団体名

社会福祉法人 リデル・ライト記念老人ホーム 理事長 小笠原嘉祐 (熊本市)

社会福祉法人 ライン工房 理事長 武田 幸之助 (熊本市)

社会福祉法人 青いりんごの会 理事長 古川 美智子 (玉名郡菊水町)

生協法人 熊本県高齢者障害者福祉生活協同組合 理事長 小笠原嘉祐 (熊本市)

特定非営利活動法人 コレクティブ 理事長 川原 秀夫 (熊本市)

〔 2 . 事業の概要〕

運営方針

- ・地域に密着した「地域の人々との協働」による開かれた運営手法の導入
- ・小規模で多機能なサービス提供による「地域での暮らしを支える」拠点
- ・こどもから高齢者まで、障害の有無にかかわらず「ともに居ることがあたりまえの場所」= 共生の場づくり
- ・障害をもつ人々の社会交流そして就労につながる支援の場づくり
- ・雇用の創出及び地域商店街等の活性化

主な実施事業

- ・高齢者や障害者をはじめ、地域の様々な方を対象とした、通所サービス事業、訪問サービス事業
- ・障害をもつ当事者が働く喫茶・軽食サービス、授産施設等の製品販売
- ・子育て支援やボランティアの育成、地域交流を行う地域の縁がわづくり事業など

〔 3 . 採用理由〕

- ・様々な分野での経験を豊かにもった団体が連携することで、多機能な福祉サービスの展開が期待できる。
- ・地域住民も参画して運営法人を構成する点は、新しい地域福祉のモデルとして期待が大きい。

2 発災時における一般の災害ボランティアの受け入れ体制の検討始まる

平成16年10月の新潟県中越地震の発生を受け、大規模な震災が本県で発生した場合、的確に対応できるかどうか、「地域防災計画」に沿った総点検が緊急に実施されました。

実施された点検項目は、延べ220項目に及び、明らかになった課題については、改善策や取り組みスケジュール等を個別に定め、体制を整備するという方針が防災消防課より示されました。

その中で、「発災時における一般の災害ボランティアの受付、調整等受け入れ体制の不備」も課題として明らかになったところです。

そこで、一般の災害ボランティアの受け入れ体制の整備を目的に関係課（防災消防課、男女共同参画・パートナーシップ推進課、福祉のまちづくり課）、関係機関（熊本県社会福祉協議会、日本赤十字社熊本県支部、熊本県共同募金会）による「熊本県災害ボランティア検討会議」を、3月2日に立ち上げました。

その中で、災害ボランティアセンターの担い手について、県においては「熊本県社会福祉協議会」、市町村においては「市町村社会福祉協議会」を中心とし、そこに関係機関や行政がどのように関わっていくか、それぞれの役割を明確にしていくという方向性を確認しました。

県ボランティアセンターでも、市町村社協と一緒に災害ボランティアセンターマニュアルなどを作成中であり、それらと並行して、具体的な取組みなどを作業部会でマニュアル化していく予定です。

新潟中越地震でも多くのボランティアの方が全国から駆けつけられましたが、その中心で重要な役割を担ったのは、県および被災地の災害ボランティアセンターでした。

それぞれの市町村では、地域防災計画に災害ボランティアセンターの位置づけや連携のあり方などを明確にされていますか？

ボランティアさんの受け入れ体制は、万全ですか？

災害はいつ起きるかわかりません。起きた時に、慌てないで済むように、それぞれの役割をいまいちど確認していただければと思います。

3 キャッチフレーズが決定されました！

～ 第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと ～

来る10月29日（土）・30日（日）にグランメッセ熊本をメイン会場に、県内6ブロックの会場で開催される「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」の各ブロックごとの大会キャッチフレーズが決定されました。今後、このキャッチフレーズとともに、県民の皆さんに、大会について関心と親しみを持っていただけるよう広報活動等に活用していきます。

（1）各ブロックごとのキャッチフレーズ（優秀賞）

【県央ブロック】 **「威風堂々そびえる城に 今日もがまだすボランティア」**

応募者住所氏名：玉名郡岱明町 甲斐 和子 様

【県北ブロック】 **「かたらんね いで湯も ボランティアも 心 ぬくもるばい」**

応募者住所氏名：山鹿市 安田 洋子 様

【阿蘇ブロック】 「火と燃える 心と心 ボランティア」

応募者住所氏名：三重県津市 森川 益明 様

【県南ブロック】 「県南に 咲かそうボランティア 愛の花」(「愛」の字をハートマークで囲む)

応募者住所氏名：群馬県高崎市 吉岡 敬一郎 様

【人吉・球磨ブロック】 「球磨の急流 いで湯の人吉 心にわき出るボランティア」

応募者住所氏名：福岡県北九州市 江島 昭雄 様

【天草ブロック】 「天草で さわやか ふれ愛 夢交流」

応募者住所氏名：滋賀県近江八幡市 南 英市 様

(2) 特別賞 菊水町立菊水中学校(下地哲雄校長)「応募点数144点」

(3) 賞 優秀賞 賞状と副賞2万円

特別賞 賞状と副賞図書券1万円分

(4) 表彰 3月29日(火)開催の実行委員会第3回総会で表彰予定

(5) 応募総数 614点(県内居住者498点、県外居住者116点)

4 熊本県福祉サービス第三者評価システムの基本的な考え方がまとまりました ～17年度から作業部会を設け種別ごとの評価基準等を検討し、18年度評価スタート～

県では、平成16年10月、利用者、事業者、学識経験者らで構成する「熊本県福祉サービス第三者評価システム検討委員会」を設置し、これまでに3回の検討委員会で議論してきました。その結果、県内で提供されるすべての福祉サービスを対象に、平成18年度から順次評価を始めることなど本県における第三者評価の基本的な考え方を決定しました。

この福祉サービス第三者評価は、福祉サービスの質の向上と利用者への情報提供を目的に取り組むものです。評価基準は、厚生労働省が示した共通項目を基本とするが、国が本年度中に付加基準を示す児童分野及び障害者・児分野については、17年度からはそれぞれ作業部会を設け、県独自の個別評価基準を検討する。評価の開始時期は、18年度中になる見込みです。
《福祉サービス第三者評価システム検討にあたっての基本的な考え方》

〔1.目的〕

- (1) 事業者が事業運営における問題点を把握し、サービスの質の向上に結びつけること。
- (2) 利用者の適切なサービス選択に資するための情報となること。

〔2.実施時期〕

第三者評価は、平成18年度から順次実施する。

〔3.対象サービス〕

県内で提供される全ての福祉サービスとする。ただし、介護サービスについては、厚生労働省老健局で別途検討されている「情報開示の標準化」の動向を待って対応する。

〔4.推進組織〕

推進組織は、当面「熊本県」に設置する。

〔 5 . 評価機関の認証 〕

(1) 国が示した「評価機関認証ガイドライン」による。

(2) 認証の有効期間は、3年間とする。

〔 6 . 評価基準 〕

(1) 評価基準は、国が示した「共通評価基準(評価基準ガイドライン)」と種別ごとの「付加基準」を最低基準として、種別ごとに個別評価基準を設定する。

(2) 種別ごとの個別評価基準の設定については、

・国が示す種別ごとの付加基準を基に個別評価基準を作成する。

・なお、介護サービスについては、厚生労働省老健局で別途検討されている「情報開示の標準化」の動向を待って対応する。

(3) 評価機関による項目の追加も可能とする。

〔 7 . 評価の手法 〕

(1) 書面調査と訪問調査に加え、利用者や家族の声を聞く利用者調査を実施する。

(2) 原則として、全てのサービスで利用者調査を実施する。

(3) 原則として、書面調査(自己評価)は常勤、日常勤職員全員を対象とし、利用者調査は利用者又は家族の概ね半数を対象に実施する。

(4) 受審の頻度は、3年に1回とする。

〔 8 . 評価結果の公表 〕

評価結果は、原則公表とするが、公表は事業者の同意を前提とする。

また、公表の際には、事業者側に意見表明の余地を残すものとする。

〔 9 . 評価調査者に対する研修 〕

評価調査者は、毎年1回推進組織が行う評価調査者継続研修を受講するものとする。

〔 10 . 評価の対価 〕

各評価機関が評価手法等に応じて設定する。

〔 11 . 普及方策 〕

シンポジウムの開催等により、事業者、利用者、評価調査者などの共通認識を醸成するとともに、ホームページや情報誌の発行、PR用パンフレット等の多様な方法で、第三者評価の目的や必要性を広く普及啓発していく。

地域情報

1 みんなの憩いの場 ~小規模作業所「こまちの森」(植木町)~

小野小町ゆかりの地「小野の泉水公園」の一角に、小規模作業所「こまちの森」があります。作業所では、廃油リサイクル石鹸、さをり織り、陶芸品、小物などを、障害者とその家族の方々に作られています

隣の建物は、入口の方にテーブルや椅子があり、奥は畳敷きになっており、地域の人や観光

客が気軽にいつでも寄れる住民交流サロンとなっています。ここでは、隣の作業所で作った作品の展示販売や、障害者が書いた絵などの展示の他、観光客用に観光パンフレット等が置いてあります。

当公園は植木町の貴重な観光資源であるため、当作業所では、週4回、たばこや空き缶拾いなどの清掃活動を自主的に行い、社会貢献活動も実施しています。

「まだ、はじめばかりで、寄ってくれる近所の方や観光客の方も少ないが、将来的には、観光客、近所の方、障害者の笑い声がいつも絶えないサロンにしたい」と代表者の声。

陶芸担当の障害者は「どこの土産店でも売っていない、小野の泉水公園の名物おみやげ品ができたらいいなと考えておりますたい」と意欲満々。

2 障害者、高齢者の旅行サポート事業が始動

～ NPO法人介護支援ネットワーク人吉球磨（人吉市）～

人吉・球磨バリアフリー観光ガイド「ふらっと」作成の経緯について

当法人では、活動内容のひとつとして、ハンディキャップを持った方や高齢者の方々が気軽に旅行ができるようにするために、「旅行サポート事業」に取り組んでいます。

この事業ではこれまでに、実際にこのような旅行を企画・運営されている方の講演会を開催されています。この事業の中で、人吉・球磨地方に旅行をされるときに、ハンディキャップを持った方や高齢者の方々が苦労されるのはどのようなことがあるか検討されました。それによると、一番困るのはトイレ、ほかにも、車イスを利用される方であれば段差があると大変など、各観光地の施設について事前に把握していればそういった問題も少しは改善されるのではないかと結論に達しました。

人吉・球磨の観光パンフレットには、そういう施設についての記載はないようで、それなら自分たちで作成しようという事で、この事業が始まりました。

「観光ガイド」自体についても、どのようにしたら持ちやすいかなど工夫もされています。この観光ガイドを持って「ふらっと」人吉・球磨の旅に出かけてみませんか。

講演会の内容

日 時：平成16年8月18日（水） 13時～

講 師：有限会社ベルテンポ・トラベル・アンドコンサルタンツ

代表取締役 高萩 徳宗氏

内 容：身体障がい者・高齢者のための旅行サポートについて

参加者：約30名（当法人会員、人吉市福祉のまちづくり推進協議会委員、一般）

バリアフリーマップについて

仕様：A5判、28ページ、カラー

発行部数：3,000部

配布先：各市町村の観光課・福祉課、旅行代理店などを予定

平成17年度の主な企画（予定）

- ・高齢の方・ハンディキャップを持った方を対象とした人吉・球磨観光旅行の企画・試行
- ・成年後見制度に関する講演会（2カ月に1回のペースで開催予定）
- ・コミュニティレストランに関する講演会
- ・C B（コミュニティビジネス）に関する講演会など

お知らせ

県ホームページにバックナンバーを掲載しています

地域福祉メールマガジンについては、平成14年11月の創刊号からのバックナンバーを全て、熊本県ホームページに掲載していますので御活用ください。

利用方法は、ホームページトップ画面で部局別欄の「健康福祉部 福祉のまちづくり課」「地域福祉推進のためのホームページ」「メールマガジンバックナンバー」の順に進んでください。アドレスは次のとおりです。

<http://www.pref.kumamoto.jp/health/fukushisuishin/mailmagazin.htm>

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」 No. 18

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課 地域福祉企画班へお願いします。

E-mail: fukushimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL:096-383-1185 FAX:096-387-5992